

2015 年度ルール改定(抜粋)

4-11 項 テンポラリーランナー

捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、捕手が出塁し、走者となったとき、捕手の代わりにテンポラリーランナーを使用することができる。

- (1) テンポラリーランナーと交代させるかどうかは、攻撃側チームの選択である。
- (2) 二死後であれば、いかなる時点でもテンポラリーランナーを使用することができる。
- (3) テンポラリーランナーとなる選手は、捕手の前の打順の者である。ただし、捕手の前の打順の者が走者となっているときは、さらにその前の打順の者がテンポラリーランナーとなる。

(注)テンポラリーランナーに間違った選手が出た場合には、正しい選手と交代させる。(それに対するペナルティはない)

【改正の趣旨】

捕手が塁上で走者となっている場合、攻守交代時に準備(プロテクター、レガーズ等の着用)に時間がかかるため、試合のスピードアップの一環として、採用されたルールである。

【補足説明】テンポラリーランナーが塁上で怪我をした場合

- ① 捕手はテンポラリーランナーと交代できない。
テンポラリーランナーが塁上にいる限り、捕手は途中で走者として戻ることはできない。
- ② 他の控え選手と交代できる。(正式な交代となる)
- ③ テンポラリーランナーの前の打順の者と交代できない。
- ④ 怪我で出血した場合、代替テンポラリーランナーは出せない。
(正式な交代のみ可能)

6-9 項 準備投球

1. 準備投球は、初回と投手が交代したとき、1分間を限度として5球以内で、次回からは3球以内である。初回と投手が交代したとき以外の準備投球で1分を超えたとき、または超えそうなときは、審判員は「残り1球」と制限することができる。

(注)攻守交代のとき、捕手の準備が遅れ、また、その代わりに準備投球を受けるものがない状態で準備投球が行えず、1分間を超えそうなときも、審判員は「残り1球」と制限することができる。

【改正理由】

ISF(国際ソフトボール連盟)のルール改正に伴い、JSA ルールにも採用した。これも試合のスピードアップを目的としたルール改正である。

7-1 項 次打者

2. 次打者は次打者席内で待機しなければならない。なお、一塁側・三塁側どちらの次打者席で待機しても良い。

【改正理由】

打者席からの距離が短く、ファウルボールが当たる危険性があるため安全性の面から改正された。

7-3 項 打撃姿勢

4. 打者は、投球間にサインの確認や素振りをするとき、打者席内に片足をおいていなければならない。

【例外】

- (1) フェア、ファウルに関わらず、打者が投球を打ったとき。
 - (2) スイングしたとき。あるいはスイングを試みたとき(チェックスイングを含む)。
 - (3) 投球を避けるため、打者席を出ざるを得なかったとき。
 - (4) ワイルドピッチやパスボールがあったとき。
 - (5) 本塁上でプレイが行われたとき。
 - (6) タイムが宣告されたとき。
 - (7) 投手がピッチャーズサークルを離れたとき。または、捕手が捕手席を離れたとき。
- 当面、JSA ではペナルティはない。

【改正理由】

ISF のルール改正に伴い、JSA ルールにも採用した。これも試合のスピードアップを目的としたルール改正である。